

# 拓殖大学

## 中曽根康弘氏に薫陶を受けた村田氏

1900年(明治33年)に設立され、今年で創立120周年を迎える拓殖大学。

前身の「台湾協会学校」は、日清戦争の結果、清から割譲された台湾の開拓を進める人材の育成を目的としていた。拓大と改称して以後も「海外雄飛」の精神から、世界で活躍する人材を多く送り出してきた。

キャンパスは商学部と政経学部がある東京都文京区と、外国語学部、工学部、国際学部が使用する八王子市の2つ。今年5月現在で5学部14学科計8719人、

大学院314人がそれぞれ在籍。また36の国と地域から1019人の留学生を受け入れている。

同窓会組織の拓殖大学学友会は国内87支部、海外にも30の支部を置いている。

北海道内は札幌など11の支部と、その上部組織として北海道連合会がある。

道連合会支部長と札幌支部長を兼任する、中央都市開発社長の木幡光範氏は

「結束力の固さは、他の大学に類を見ないものだと思っています」と話す。各支部の総会や懇親会へ精力的に顔を出し、後輩の相談などにも引き受ける、道内OBのまとめ役だ。

経済界で著名な人物の1人が、農業資材商社「コハタ社長の木幡光範氏。

コハタは1924年(大正13年)に創業し、年商100億円超と旭川を代表す

る企業だ。木幡氏は旭川支部長も務めている。

十勝毎日新聞社グループの北海道ホテル社長を務める林克彦氏、石山組社長の石山公介氏の名前もある。

政界では、昨年の参院選で国会議員に返り咲いた鈴木宗男氏が、抜群の存在感を示している。

鈴木氏と前栗山町長の椿原昭氏、今年6月に亡くなった元三和シャッター工

業社長の仲野幹男氏は十勝管内の足寄高校出身で、いずれも拓大に進学した。

鈴木氏は以前、本誌の取材にこう話していた。

「椿原さんが私の1学年上、2学年上が仲野さん。私たちは大学から歩いて帰れる板橋で下宿していました。いつも3人で銭湯に行ったり、夕飯を食べたりしたものです。大学卒業後、仲野さんは大手企業のトップを

務められた。椿原さんも栗山町役場に入って町長にまじりました。親分になつてないのは私だけなんです(笑)。2人の先輩には本当に助けられました」

鈴木氏の2年後輩で、後志管内選出道議の村田憲俊氏は昨年6月、第32代北海道議会議長に就任した。

「私が3年生の時に、拓大の総長だった中曽根康弘さんが講演をされました。そ

の時話していたのが「自分の言葉で天下国家を論じられる人間になれ」ということ。その言葉は今でも胸に刻まれています」と振り返る。

## 道短大は農家の子弟に出身者多数

深川市には拓大唯一の系列短期大学、北海道短期大学がある。以前は農閑期の

冬季のみ講義のある農業経済科が置かれていたこともあり、農家の子弟に出身者が多い。

首長では、富良野市長の北猛俊氏と石狩管内新篠津村長の石塚隆氏が、ともに実家の農家から自治体議員を経て当選を果たした。

北氏は「2年生のころにサッカー同好会を立ち上げたの思い出。大会にもGKとして出場したが、急いでしらのチームということもあり、1回戦で敗退。帰りの道中は無念で言葉もなかった」と懐かしむ。

名寄市選出道議の中野秀敏氏も、旧風連町議会議長から道議に転身した。

道短大の同窓生は「北短支部」会員という扱いだったが、発展的に支部を解消し、拓殖大学北海道短期大学同窓会に改組。昨年11月には記念のシンポジウムも開かれ、盛況だった。

(清水)



木幡光範  
コハタ社長



大館一生  
中央都市開発社長



太布康洋  
北九州市会議員



佐藤彰  
北海道信用農業協同組合連合会会長(道短大)



土手光三  
道南ランス社長



中野秀敏  
道議(道短大)



村田憲俊  
道議会議長



鈴木宗男  
参院議員/日本維新の会北海道総支部代表



石塚隆  
新篠津村長(道短大)



北猛俊  
富良野市長(道短大)